妖の森

月編

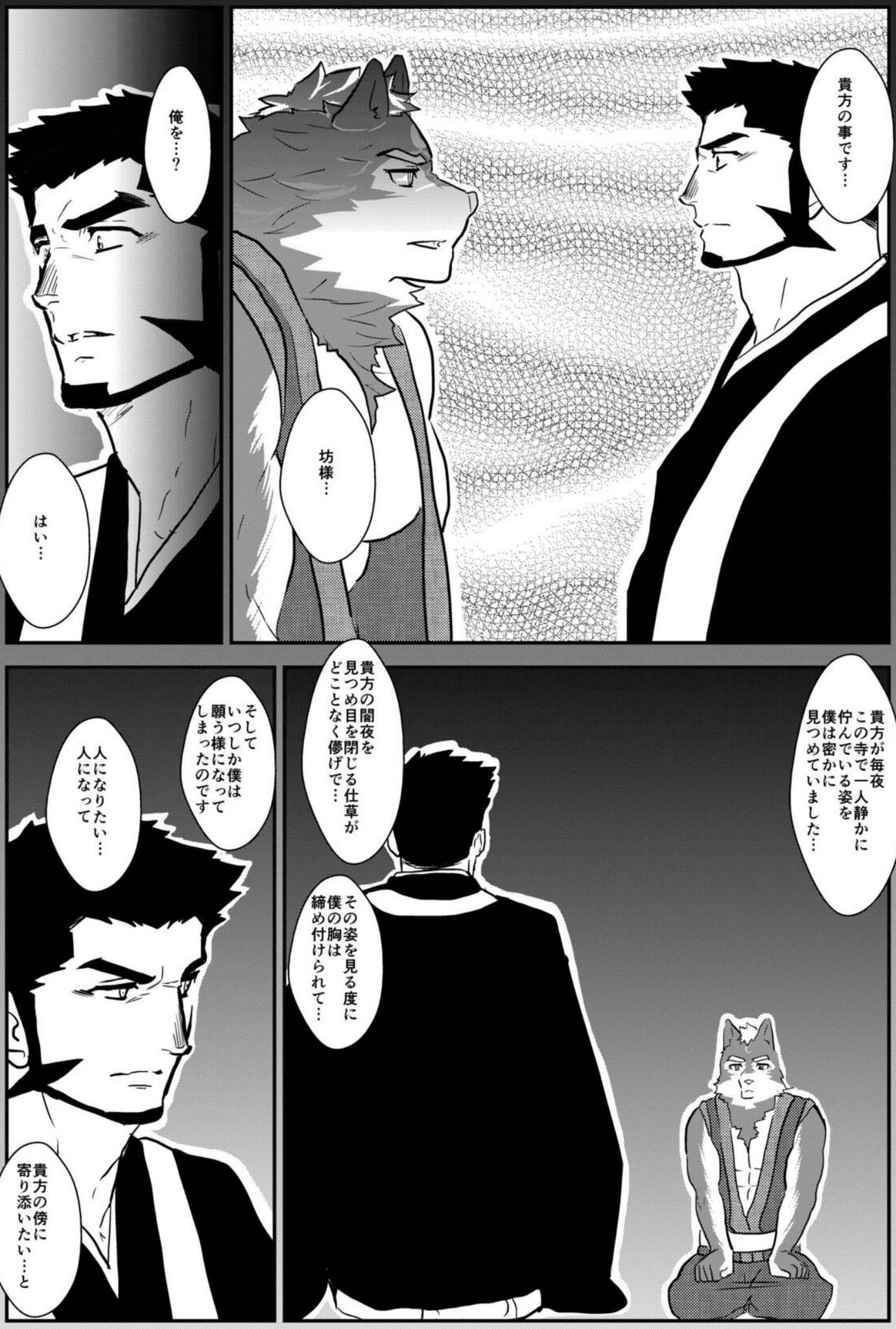
……ッ

何しに来た…
此処から先は
お前が踏み入れる
場所ではない…
用が無いなら
即刻立ち去れ
あの…
聞こえんのか
立ち去れといったのだ
…ッ
ち…
違うんです…ッ
僕は…話を…ッ
願いを聞いて頂きたくて
その…
話…だと?
妖怪であるお前が
人間であるこの俺に
何の話があると
言うんだ
お願いします…
坊様…

僕を…
ｸﾞﾙﾙ…ﾒ
殺して下さい…ッ
…ッ
お前を殺せ…だと…？
…はい…
僕は…
僕はもう駄目なんです…
自分を抑えきれない…
このままじゃ…
…
…

…其処に居ては
体も冷え込む
入れ
話を
聞かせて貰おう…
…
自分を殺せ…
と言っていたな
はい…

坊様ももう
お気付きでしょうが
僕は狼の
妖…
怪異の中でも
上位に値する力を持つ
種族になります…
人狼…
えぇ
満月の夜に
月の光を借りて
妖力を増幅させると聞く…
己をも制御
出来なくなる程の
力を発揮するという
極めて危険な妖…
…その通りです
実際のところ
僕も自分自身を
失いかけた事が
幾度となくありました
その度に
自身を戒めては
いたのですが…
ゴッ
…
僕は…ある方に
愛心を抱いてしまったんです
愛心…？
…はい


貴方の事です…
坊様…
俺を…？
はい…
貴方が毎夜
この寺で一人静かに
佇んでいる姿を
僕は密かに
見つめていました…
貴方の闇夜を
見つめ目を閉じる仕草が
どことなく儚げで…
その姿を見る度に
僕の胸は
締め付けられて…
そして
いつしか僕は
願う様になって
しまったのです
人になりたい…
人になって
貴方の傍に
寄り添いたい…と

叶わぬ想いだとは判っています
でも…自分でもこの想いを止めることが出来ない…
抑えることが出来なくなってしまったんです…己の…心なのに
先程云った通り僕は人狼という怪異です
満月の夜になると内から溢れ出る力を制御出来なくなる
きっと…次に狼に変わる時が来るなら…
僕は自分に負けてしまい完全な人狼に変貌してしまうでしょう…
そうなる前に…坊様…!!お願いします!!
僕を殺して下さい!!
このままだと僕は貴方を殺めてしまう…ッ
理性も想いも何もかも失い欲望のままに貴方に牙を剥いてしまいかねない…ッ
いや貴方だけじゃない自分のせいで貴方を失ったと気付いた僕は…
完全に人狼に心を預けてしまうでしょう
そうなってしまえば此の森の妖…いいえ果ては此処に住む人間達の命でさえも
奪ってしまい兼ねないんです…!!

だから
お願いします!!
坊様!!
僕を…ッ
僕を殺してください!!
一刻も早く…ッ
僕を…ッ
お前の話は
判った…
俺も
彼方と此方の
門番を生業とする
身だ…
下界の民が
危険に晒されるような
状況を
そう易々と
看過は出来ない…
ただ
俺はお前を
殺さない
ズOOO
意味の無い
殺生は
俺の意に反する
そんな事をしては
俺は俺の名を
けがしてしまう事になる

な…んで…
何を言ってるんですか!?
僕を殺さなければ
貴方の命が…ッ
ワロロ
お願いします!!
殺してください!!
貴方を傷付ける様に
なるなら…
僕は生きてたって
意味がない!!
だから…ッ
俺は殺さない
其れはお前が
何を言おうと
変わらない
それが俺の
答えだ
そんな…ッ
何で…
何故ですか…ッ
僕は貴方なら…
殺されても構わないのに…ッ
貴方になら…
この命を差し出しても
良いとさえ思えたのに…ッ
何故…
聞き入れて
くれないんですか…ッ
…
坊様…ッ!!

…お前を殺さなくても
解決出来る案はある
案…？
何ですか…其の案って…
俺と契約を結べ
そして俺と共に此の境を守る門主になるんだ
お前も既に知っているだろうが
此処は妖の森と人間界との境目…俺はその境を守る門番を生業としている
その俺と契約をすればお前は俺を殺す事は出来なくなる…
妖や下界の民を殺める事もせずに済む

で、でもそんな…
そんな事が…
本当に
出来るんですか…？
あぁ
如何やって…
そんな契約を…
服を脱げ
人狼
え…？
俺と交わるんだ
…ッ!!

貴方は…
今から始める
その契約で…
今外に居る天狗様を
同じ門主に
引き入れたんですよね…
…正確には違う
契約を結んだのは
確かだが
今から行う
契約とは
また違う方法で
奴とは掟を結んだ
奴に取っては
長い生涯の中での
ほんの気まぐれに過ぎない
気が変われば
本来自分が
居るべき場所へ
戻って行くだろう…
奴はそういう
人間だ
人間…？
人間て…如何いう…
話は此処までだ

おい
天狗
五月蠅いぞ
もっと静かに
出来ないのか？
これはこれは…
済まんな
起こしてしまったか
坊よ…
いや…
まだ寝ては
いなかったが…
その乱れ具合…
うぬも楽しみの
最中であったか…？
…お前には
関係の無い
事だろう…
そうだったな…
うぬと吾は
契約を結びは
しているが…
互いに干渉は
しない仲で
あったな…
…
では吾等は
別の場所に
移るとしよう…
!!
邪魔をして
悪かったな
ゆっくり
楽しむがいい…
……

…坊様？
如何しました？
カラ…
何だか
顔色が…
…いい
続きを
始める
…はい…
前戯は
無しで良いと
聞きましたが…
本当に…
良いんですか…
構わない…
早くしないと
月が昇り始めて
しまう…
そうなってしまっては
既に遅い…
だから早く捻じ込め…
其の
肉棒を…ッ
…はい…ッ

ブルッ
ブルッ
きつ…ッ
ん゛ぐ…ッ!!
ギュウウ…ッ
坊様…ッ
大丈夫ですか…ッ?
…ッ
オッ
…俺に
構うな…ッ
もっと奥に
挿れろ…ッ
抜けなく
なる程に…ッ
バッ
でも…ッ
そんな事をしたら
僕が人狼に変わった時
坊様は…ッ
五月蠅い…ッ!!
お前は余計な事を
考えるな!!
今は奥に挿れる事だけ
考えろ…ッ!!

…ッ
…はいッ!!
ぐ…ウッ!!
ン…ッ
ねぇ…ッ
何か…ッ
ぐ…ッ
う…ッ
ウゥッ
何か聞こえませんか…?
呻き声のような…ッ

…ッ
お前は
気にしなくても良い…ッ
其れよりも…今は…ッ
今は俺に
集中しろ…ッ
人狼…ッ
…はい…ッ
坊様…ッ

坊様…ッ
身体が…ッ
ビクッ
ビクッ
身体が熱くなって…ッ
このままでは僕は…僕は…ッ
遂に…ッ現れる時が来たか…ッ
人狼…ッ!!
ビクッ
ビクッ
ぐぅ…ッ
うぅうぐぅ…ッ
!!!
バオオオ!!

…ッ
…俺を逃がさねぇ様に自分の身を犠牲にするとは…
大したもんだなぁ…？
坊主…
ハァ…ハァ…ハァ…

其れがお前の本当の姿か…
随分と立派になったものだな…人狼…ッ
あんな甘っちょろい餓鬼の姿と一緒にしてんじゃねぇよ…黄が…
ビキッ
ビキッ
さっきとは比べ物にならない程に太く硬く…ッ
この圧迫感…ッ胎盤が圧し潰されて…ッ
長く膨張している…ッ
息が…出来ない…ッ
苦しいか…？
腹の中でも俺の肉棒がくっきり現れてるもんなぁ？
其れで…？俺と契約を結ぶ等とほざいていたが…
如何結ぼうとしているんだ…？
言っとくが…俺はそう簡単にお前と契りを結ぶ気はないぞ…

…分かっている…ッ
俺も簡単には…ッ
お前を屈服
させれるとは…ッ
思っていない…ッ
ほう…
なら如何する気だ？
まさかお前の其の
お遊び程度の霊力で
この俺を
封じ込めるつもりじゃ
ねぇだろうな…？
…ッ
俺は…
お前に
一切手を出さない…ッ
あぁ？
…ッ
…ケッ
俺はお前に
危害を加えない…ッ
俺の身体を
如何しようが
お前の勝手だ…
好きに
するが良い…ッ

何処まで本気で言ってるのか知らねぇが
この状況下でまだそんな事が言えるとは…
相当命が惜しくねぇ様だな…？
坊主よぉ
ぐ…ッ
…ッ
まぁいいその与太話が何処まで続くか
自分の目で確かめて見れば良い
もっとも…
確かめれる程の意識が残ってればの話だけどなぁ!!
オ゛ァ…!!

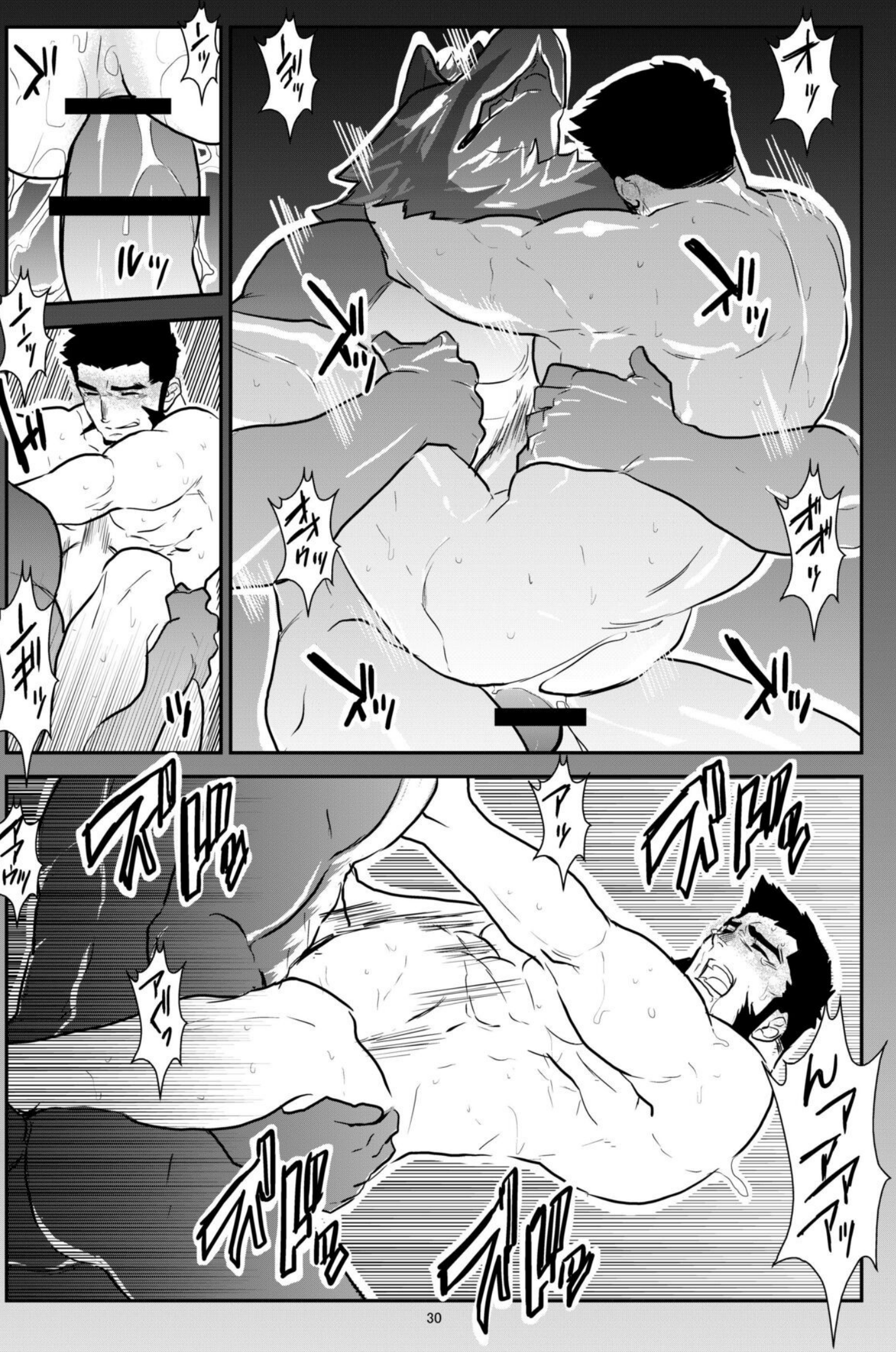
…ッ
どうだ？腹が圧迫されてる感覚…
ゴゴ…ッ
く…ッ
苦しくて堪んねぇだろ？
ブルッ
クゥ…ッ
でもな…辛いのは此処からなんだぜ？
うクゥウッ
ゴ…ッ
堪んねぇなぁ!!身体が拒絶して一気に締め上げてくるこの感触!!
ンがッ
ガッ
アッ
ガッ
ガッ
アガッアッ
お前にも味わわせてやりてぇよ!!
ぐっ
ぐぅウッ
ズッ

でも残念だな…ッ
お前は今日俺に
喰われちまう…
ンぎぃっ
ウゥッ
煮ようが焼こうが
俺の自由だもんなぁ？
ぐィイッ
ぐひっ
安心しろよ…ッ
只痛めつける
様なことは
しねぇ…
タップリと腹に
植え付けてから
殺してやる…ッ
一度なりとも
愛した男だ…
そんな柔には
しねぇよ…
しっかり
受け取れ!!

如何だ!?坊主…ッ
アッ
ズプッ
アグッ
太いモノで腹を抉られる気持ちは…ッ
ズプッ
アゥウッ
テメェの意識ぶっ飛んじまいそうだろ?
ハァッ
ハァッ
ついでに俺の精汁で頭も真っ白になりたいか…ッ
ハァッ
いいぜ!!お見舞いしてやるよ!!
んぁぁあアァッ
ドゲゲゲッ!?
たっぷり出してやるぜぇ!!

!?
ンッ
ンゲッ!?
ヘヘ…ッ
勢い良く吐いちまったなぁ…ッ
折角出してやったっつうのに…勿体ねぇ事しやがる…

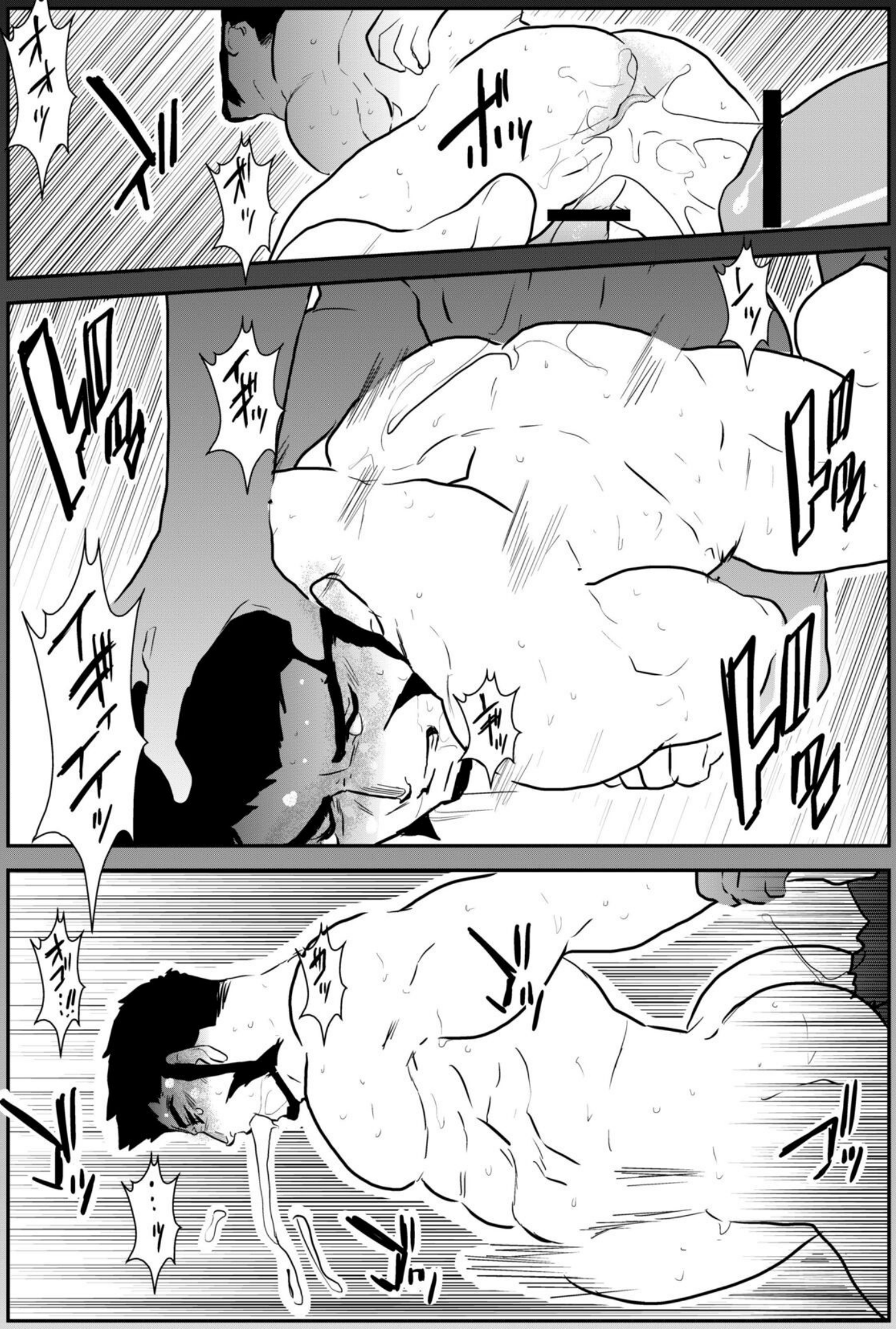
そんな勿体ねぇ事する奴は…
ウッ
ンンッウ…
ヒロロロ


ハッ
ルッ
ハッハッ
ハッハッ
ハッ
オッ
ズッ
ズッ
オォッ
ズッ
ボボッ
ズッ
ハッハッ
ハッハッ
ズブブブ
アッ
ズブブブ
ンアアアアッ
ズブブブ
ズブブブ

逃がしはしねぇぜッ
一度出された位でへこたれるようじゃ
俺を従わせる事なんて無理だぜぇ!?
出すぞ…ッ

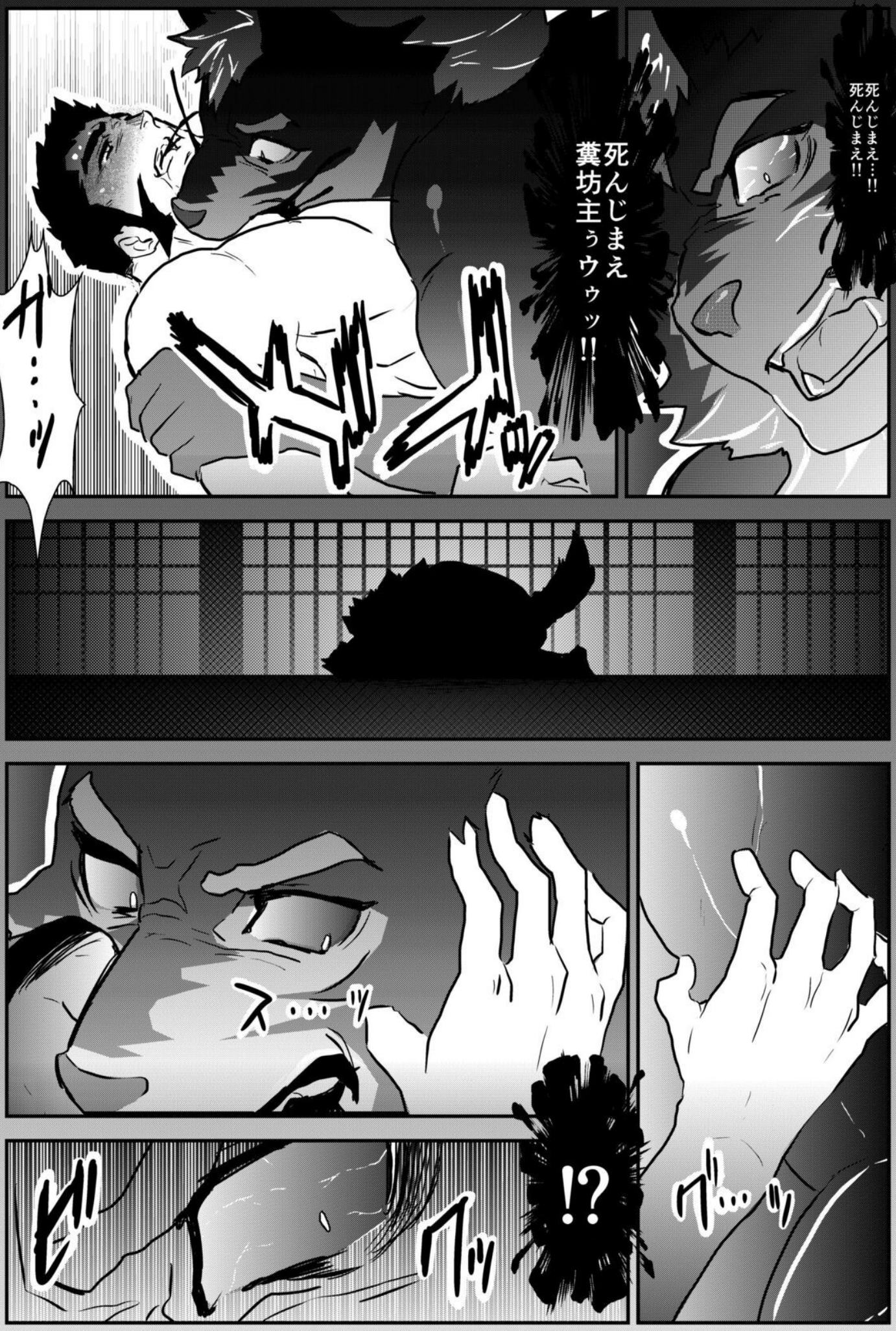
ンぶうううウウウッ!!!
ングゥッ
ゴブッ
ブゥウッ

二回も噴き出しやがって…
でもこれで…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
…ッ
…ケッ
睨んでやがる…ッ
まだそんな力が残ってたとはな…


オオッ
ボッ
オッ
ドゴ
ドゴ
イッ
ドゴ
ドゴ
イギィィィッ
イギッ
ゴッ!!
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ

もう容赦はしねぇ…ッ
そんなに死にてぇなら…
俺の精汁で溺れ死んじまえよぉおぉッ!!!
ゴボッ
ゴボッ
ハァッ
ハァッ

イッ
…な…ッ
ッ!!
…貴様ぁあ!!
そんな目で俺を見るな!!
この俺を…ッ
そんな目で見るんじゃねぇ!!


死んじまえ…!!
死んじまえ!!
死んじまえ
糞坊主ぅウゥッ!!
ヵ…ッ
ス…ッ
ビッ
グッ
!?
ゲ…ッ

……ッ!?

…
!?
…
ハァ…
ドアアアッ
ガッ
…ッ

ハァ…
ハァ…
ふざけんじゃねぇ…
糞坊主…ッ

ス…ッ
ボウ…
…ッ
ビクンッ
カハッ
…ッ
カハッ
ゴボッ

俺の…
負けだ…
坊主…
契約を
交わしてやる…
今後一切の
行いを
お前の意思に
従うと誓う…
この力も…
お前の為に
使うと約束しよう…
其れで…
良いな…
……

ただし
…ッ
俺にも
一つ…
条件がある…
条件…？
あぁ…
…何だ…
その条件という
のは…
カラ…

…終わったのか…？
あぁ…
…
また厄介な者を
引き入れて
しまったものだな…
上等怪異として
恐れられていた
人狼も
今や昔の話…
もはやそやつしか
生き残って居ない様な
下等な種族…
放っておいても
いずれ死に絶えていたで
あろうものを…
…門番は多ければ
多いほど良い
こいつの力も
役目を果たすに
相応しい力だ
その為に
契約を結んだの
だから…
…
吾とは違って
随分と平凡な
契りではあったがな…
まぁ良い…
いずれ吾も
此処から立ち去る
日が来る…
その前に…

仲間とやらを増やしておくのもお前にとっては良かろう…
仲間…か
俺はお前との契りを結んだ…
だからお前には…

俺の傍に…
俺の隣に居てくれる事を誓ってほしい…
約束して…くれるか…
…
あぁ…
約束しようこの身に変えても…
お前の傍に居ると誓う

あいや～それそれめんそ～れ～。
：はい！どうもでございます、空色パンダでございます。
ただ今の時刻：朝の六時！みんなおはようー！
世界が明るくて若干イラつくぜ☆
最近ツイッターの方で落書き漫画を描いている私でございます。
いやそれが最初はツイッターに絵を載せるなんて抵抗があったんです。
だってはっきり言って絵の才能ないじゃないですか。私。
キャラの描き分けは出来ないし、色付けも下手くそ
何より作画崩壊が地獄級レベルのこの私。誰が見ますかよそんな奴の絵。
しかもツイッター上には素晴らしき絵師様達でひしめき合ってる…。
そんな所に自分の絵を投稿するなんて自殺するのと同じくらいの気持ちだったんです。
だけどある日知り合いの方から進められてやってみるかと落書き漫画を投稿したところ、
思いのほか自分が楽しくなっちゃって、以後漫画をそっちのけでバンバン投稿するようになったんですね。
：まぁ：それだけなんですけど。（はぁ？）
ということで漫画出来ました。
今回はなんと！誰も待っていない「妖の森」の続編でございます！
これさぁ：何年前よ。え？もう自分でも分からないくらい昔に描いた記憶がありますが：。
一体前作を読んで頂いてる方は何人いらっしゃるのか：つうかいねぇよなあんな糞漫画。
そんな誰が得するかも分からないような漫画を今回続編という形で再度投稿した私。
えぇバカですよ。知ってます。
今回は前作にちょろっと出てた坊主と狼男の話です。一応前作と時系列もリンクしてたりします。あざとい！
まぁ：前と変わらずボロボロな漫画ですが、買って頂いた貴方！本当に有難うございます！
一応更なるプチネタバレするとこの坊主と狼男、
私の漫画の中のあるお話に出てくる登場人物の血縁：にあたります。
まぁ誰も興味ねぇ事ですが：ふふ。
ということでお目汚しを残して私は逃げます！また次回があったらよろしくお願いします！
それでは、ばいならっきょ！